

令和7年7月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和7年7月号」をお送りいたしますので、御高覧くださいますようお願いいたします。

およそ300年の歴史と伝統を誇る国の重要無形民俗文化財「八戸三社大祭」が、今年も7月31日～8月4日の日程で開催されます。おがみ神社・長者山新羅神社・神明宮の三神社の神輿行列と、神話や歌舞伎等を題材に各山車組が制作した27台の山車の運行が一番の見どころです。

今年は、8月2日の夜間山車運行に鮫青年会が2年ぶりに参加するほか、八戸市中心街にライトアップされた山車が一斉に展示され、各組のお囃子が繰り広げられる4日の後夜祭は、昨年を引き続き午後6～9時の3時間で実施。祭りの雰囲気をつくりと味わうことができそうです。

市内では山車作りやお囃子の練習が本格化し、祭りムードが高まっています。八戸のまちが熱気に包まれる「八戸三社大祭」に是非お越しください。

◎皆様へのお願い

職業、役職、連絡先などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 03-3261-8973 / FAX 03-3239-6723

E-mail tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 7月号 レポート

令和7年6月の八戸市内での出来事や
八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	畑で味わう自然派ワイン ブドウ園地でセミナー初開催
(2)	ナイトマーケット 夜のマチニワに出かけよう 飲食・スイーツ店、雑貨店など出店
(3)	八戸市こどもまちなかIT部 初ミーティング 地元PRのホームページ作成へ
(4)	市長との公民館サロン始まる 外国人との触れ合い、どう育む

【産業】

記事	概要
(5)	プライフーズ（八戸）新たな食鳥工場 名称は「南郷カッコーの森工場」
(6)	エプソンアトミックス（八戸）第二工場完成 不要な金属を資源化
(7)	八戸酒造初ワイン フレッシュで爽やかな秋
(8)	外国船入港2.5万隻到達 八戸港、節目祝い記念式典
(9)	嶋脇漁業（八戸）主体に産学金官連携 陸上養殖 本格始動

【地域】

記事	概要
(10)	八戸市議会 藤川氏 初の女性議長に
(11)	八戸・種差天然芝生地で朝ヨガ始まる
(12)	あなたが選ぶ「八戸の漢字」 清水寺の森貫主 八戸で揮毫
(13)	学生主導のまちづくり拠点「はちのす」 市中心街にオープン
(14)	八戸高等支援学校の大人気「バスチー」 今年もかぶーにゃで販売
(15)	八工大「光学式モーションキャプチャシステム」導入 CG最先端技術で地域貢献

【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	鮫神楽 保存会若手が演目披露
(17)	騎馬打毬応援イベント 南部家当主 後継者育成訴え
(18)	八戸あおば高等学院生 大阪・関西万博で流鏝馬演武
(19)	レスリング伊調選手（八戸出身）が協会理事就任へ
(20)	八戸ダイム 今季ホーム初優勝 3 x 3 エグゼプレミア第4 R

【行政】

記事	
(1)	<p>畑で味わう自然派ワイン ブドウ園地でセミナー初開催</p> <p>八戸市と八戸ワインフェスティバル実行委員会は6月15日、自然派ワインをテーマにした「ナチュラリスト～畑で味わう自然派ワインのセミナー～」を開催した。ワインフェスは2014年から行われており、今回初めて南郷地区のブドウ園地で実施。セミナーでは、食事やワインの説明のほか、「カーブドッチワイナリー」（新潟市）の掛川史人氏の講演、実行委員長を務める澤内醸造（八戸市）の澤内昭宏代表とのトークセッションが行われた。抽選で選ばれた20人の参加者は、醸造家の思いを聞きながら八戸ワインや食事を楽しんだ。</p>
(2)	<p>ナイトマーケット 夜のマチニワに出かけよう 飲食・スイーツ店、雑貨店など出店</p> <p>八戸市中心街のマチニワ軒先で6月20日、市内の飲食店や雑貨店などが出店する「ナイトマーケット」が開かれた。街路を人中心の空間に転換する市の「中心街ストリートデザイン事業」の一環で、昨年度に引き続き実施。出店者のコスト縮減や売り上げ確保につなげ、定期開催や民間事業者による主体的な運営促進を目指す。この日は弁当や総菜、スイーツや雑貨などを販売する12店が出店し、仕事帰りの市民や子ども連れなど、多くの来場者が訪れた。今後の開催は9月19日、10月17日、11月21日の午後4～7時。</p>
(3)	<p>八戸市こどもまちなかIT部 初ミーティング 地元PRのホームページ作成へ</p> <p>八戸市は6月22日、子どものための市ホームページを制作する「こどもまちなかIT部」（愛称・こまちラボ）の本年度の初ミーティングを開いた。昨年度スタートした産学官連携の事業。部員23人は、八戸工業大学番町サテライトキャンパス「ばんらぼ」を拠点に月1、2回程度活動し、ITスキルの技術も学びながら、食や文化、施設など各自が決めたテーマで取材して記事を執筆する。ミーティングでは、部員の自己紹介やチーム分け、今後の活動内容などを説明。部員たちは、今後のコンテンツ制作に向け、意欲を高めた。</p>
(4)	<p>市長との公民館サロン始まる 外国人との触れ合い、どう育む</p> <p>八戸市は6月24日、熊谷市長と地域住民が語らう本年度最初の「市長との公民館サロン」を同市の江陽公民館で開いた。この日は来日2年目のインドネシア人がゲスト参加し、勤務先の北日本造船（同市）で共に働く外国人の生活を紹介。江陽町内連合会からは会長ら10人が参加し、同地区に住む外国人との交流をテーマに、触れ合いを育む方策について意見交換した。公民館サロンは市長の政策公約事業として2022年度にスタートし、これまで35回開かれている。本年度は10地域程度での開催を見込む。</p>

【産業】

記事	概要
(5)	<p>プライフーズ（八戸）新たな食鳥工場 名称は「南郷カッコーの森工場」</p> <p>鶏肉生産加工大手のプライフーズ（八戸市）が旧八戸北高校南郷校舎跡地に整備する新工場の安全祈願祭が6月2日、現地で開かれ、関係者らが工事の無事を祈った。国内初の日本ケンタッキー・フライド・チキン（横浜市）向けに冷凍加工し出荷する専用工場となる。名称は「南郷カッコーの森工場」に決定。延床面積は約16,000㎡で、1日当たりの処理羽数は最大6万羽。AIによる処理工程の自動化などで省力化や生産性向上を図る。従業員120人のうち、一部は地元からの新規雇用を予定。2026年11月の稼働開始を見込む。</p>

(6)	エプソンアトミックス（八戸）第二工場完成 不要な金属を資源化 微細合金粉末の生産で世界トップシェアを誇る八戸市のエプソンアトミックスが八戸北インター工業団地に建設していた「北インター第二事業所 金属精錬工場」が、6月6日に完成した。同工場では、エプソングループや地域で不要となった金属を精錬し、金属粉末製品の原料として再資源化を図る。合金粉末の製造を担う事業者が自前でリサイクルの精錬工場を持つのは全国的に珍しいとみられる。高品位の再生材料で高性能な金属を仕上げつつ、地下資源の保護を推し進めることで、環境と経済性の両立を目指す。
(7)	八戸酒造初ワイン フレッシュで爽やかな秋 八戸酒造（八戸市）は、米国産のブドウ果汁を使用した赤ワイン「8000 Wine ネコラベル」を限定販売した。日本酒の「陸奥八仙」などのブランドで知られる同社。近年は焼酎やスピリッツなど多様な酒造りを展開してきたが、ワインの製造は初めて。将来的には青森県産のブドウを使った醸造も視野に入れる。酸化防止剤は使わず、フレッシュなブドウの果実感があふれる香りで爽やかに飲める一品。目を引く商品で手に取りたくなるようにと、ラベルはネコがデザインされている。720ml入り1,430円（税込）。1,500本限定で同社のオンラインサイトなどで購入できる。
(8)	外国船入港2.5万隻到達 八戸港、節目祝い記念式典 1939年に開港した八戸港に入港した外国貿易船が25,000隻に達し、6月28日、記念式典が開かれた。節目に入港したのはパナマ船籍の「サンライズ クイーン」（33,151 t）。八戸市に製造拠点がある大平洋金属の依頼を受け、フェロニッケルなどの原材料になるニッケル鉱をニューカレドニアから積み込み入港した。同船内で行われた記念式典には、市や港湾の関係者ら約30人が出席し節目を祝った。八戸港国際物流拠点化推進協議会を務める熊谷市長は「今後も地域の産業と世界を結ぶ拠点として、各国との交流を深めたい」と述べた。
(9)	嶋脇漁業（八戸）主体に産学金官連携 陸上養殖 本格始動 八戸市の漁業会社「嶋脇漁業」を実施主体とした産学金官連携による陸上養殖事業で、同社は6月30日、希少なカレイ「マツカワ」の稚魚3,000匹を飼育水槽に投入し、事業を本格スタートさせた。嶋脇漁業、青い森信用金庫、八戸工業大学、青森県栽培漁業振興協会、市の5者連携で展開している同事業。人工海水を浄化、循環させて利用する「閉鎖循環式」の陸上養殖施設としては県内最大規模で、天候に左右されず一定の水温を維持できることから、安定的な生産が期待できる。順調に成長すれば来年5～7月ごろに初出荷できる見通し。

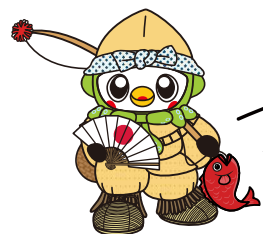
【地域】

記事	概要
(10)	八戸市議会 藤川氏 初の女性議長に 八戸市議会は6月3日、小屋敷孝氏の議長辞職を受けて議長選を行った結果、藤川優里氏を新議長に選出した。市議28人が投票し、26票を獲得。藤川氏は、2007年の市議選で同市議選史上最多得票で初当選、現在5期目を迎えている。小屋敷前議長と同じ自民党の第1会派「自民クラブ」に所属。女性議員が議長につくのは初めてで、40代での就任は70年ぶりとなる。

(11)	<p>八戸・種差天然芝生地で朝ヨガが始まる</p> <p>八戸市の種差天然芝生地で6月7日、「種差朝ヨガ」が始まった。朝ヨガは地域団体「種差あねっこ」が2015年から主催してきたが、今年から若手を中心に再結成した実行委員会が運営に当たる。参加者はインストラクターの指導を受けて毎回約1時間ヨガを楽しめる。初日のこの日は晴天に恵まれ、市内外から102人が参加。開放的な自然の中でゆったりと体を動かした。朝ヨガは9月28日までの毎週土曜と第4日曜、午前7～8時に開催。予約不要で参加費は500円（小学生以下は無料）。</p>
(12)	<p>あなたが選ぶ「八戸の漢字」 清水寺の森貫主 八戸で揮毫</p> <p>八戸仏教会は6月11日、「あなたが選ぶ『八戸の漢字一文字』」の選考結果を発表し、市民から応募のあった約1,400件の中から最も多かった「海」を選んだ。また、八戸をイメージしたり、未来につながったりする漢字として「杣（えんぶり）」と「食」の2文字も選定した。同仏教会主催の「釈尊降誕花まつり」の一環。同日には、世相を表す年末の恒例行事「今年の漢字」を揮毫している清水寺（京都市）の森清範貫主がSGグループホールはちのへ（八戸市公会堂）で市民の前で3つの漢字を揮毫し、力強い筆運びで会場を盛り上げた。</p>
(13)	<p>学生主導のまちづくり拠点「はちのす」 市中心街にオープン</p> <p>八戸市十六日町の田中屋ビル3階に、慶応義塾大学の学生団体が整備した交流サロン「はちのす」が6月23日、オープンした。中高生や大学生が自由に集まって活動し、それを支援する人をつなぐ多世代交流の場として「人材」育成にもつなげる。拠点は学生団体「Co-laboratory（コラボラトリー）」の八戸プロジェクトが運営。同大学院修士課程2年の吉田悠馬さん（八戸市出身）ら4人が中心となり、ビルの一室をクラウドファンディングで集めた資金を使って改装した。施設は予約制で、平日の夕方や土日は学生専用の勉強、交流スペースとして無料開放するほか、イベント用に有料で貸し出す。社会人にも有料で貸し出し、収益を施設の運営費に充てる。</p>
(14)	<p>八戸高等支援学校の大人気「バスチー」 今年もかぶーにゃで販売</p> <p>八戸高等支援学校産業科の生徒が手作りする「バスチー（バスクチーズケーキ）」が、蕪島物産販売施設「かぶーにゃ」で販売されている。商品流通の仕組みを知り、就労への意欲につながるとともに、コミュニケーション力、社会性を身につけることを目的に、6年ほど前から実施している。本品は、生徒が主体となって運営する校内カフェ「カフェ854」の人気商品。同施設でも店頭に並ぶとすぐに完売するほど、生徒の励みにもなっているという。1個300円。12月まで月1、2回、40個程度納入する。</p>
(15)	<p>八工大「光学式モーションキャプチャシステム」導入 CG最先端技術で地域貢献</p> <p>八戸工業大学はCG技術に関する教育や研究を促進するため、光学式モーションキャプチャシステムを導入し、6月26日から本格運用を始めた。モーションキャプチャシステムは、人の動きをデジタル化する仕組みで、光学式のシステムは最も高精度で再現性が高く、人や物の動きを細かく取り込めるのが特徴。現在、北東北で導入している大学はほとんどなく、学生により実践的な学びを提供できる。将来的には、スポーツの動作解析によるパフォーマンス向上や、地域の伝統芸能をデジタルデータとして後世に残すなど、地域社会への貢献にも活用していきたい考え。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	<p>鯨神楽 保存会若手が演目披露</p> <p>八戸市の鯨神楽保存会は6月8日、同市の鯨町生活館で発表会を開いた。小学校1年生から社会人までの演者10人が出演。鯨神楽連中の指導協力を受け、4月から週3回重ねてきた稽古の成果を披露した。演目は約10年ぶりとなる「牛若丸鞍馬入」など8つ。牛若丸役と天狗役が激しい立ち回りを披露する場面では、会場から大きな拍手が上がるなど、会場に詰めかけた多くの観客は同地区に伝わる芸能を楽しんだ。</p>
(17)	<p>騎馬打毬応援イベント 南部家当主 後継者育成訴え</p> <p>八戸市に伝わる青森県無形民俗文化財「加賀美流騎馬打毬」の継承へ向け、八戸藩南部家16代当主の南部光隆さん（埼玉県在住）が応援イベントを企画し、6月14日、同市の「はっち」で開かれた。毎年、三社大祭の中日に開催される加賀美流騎馬打毬は、2027年に200周年の節目を迎えるが、近年は馬や騎手の確保が難しくなり存続の危機に直面している。イベントでは、関係者や現役騎手、ファン代表者らが登壇。会場には市内外から約120人が集まり、騎馬打毬の魅力や存続に向けた取組について意見を交わした。</p>
(18)	<p>八戸あおば高等学院生 大阪・関西万博で流鏝馬演武</p> <p>八戸市の技能教育施設「八戸あおば高等学院」の生徒らが、6月18日の大阪・関西万博内のイベント「YABUSAME EXPO～スポーツ流鏝馬文化祭～」に出演した。さまざまな理由で学校に行けなくなった子らが通う同学院は3年前にスポーツ流鏝馬コースを新設。流鏝馬の授業や馬との触れ合いなど、通常の学業では扱わない分野を経験させることで、子どもたちに多様な可能性があると提示してきた。イベントには3,000人以上が来場し、生徒4人は学院のスポーツ流鏝馬コースなどについてスライドで発表。最後の立射演武では、太鼓の音に合わせ、きびきびと弓を射る動作を披露した。</p>
(19)	<p>レスリング伊調選手（八戸出身）が協会理事就任へ</p> <p>レスリング女子で史上初の五輪4連覇を達成した八戸市出身の伊調馨選手（ALSOK）が6月26日、日本レスリング協会の理事に就任した。伊調選手は、現役を続けながら女子日本代表コーチを務め、練習拠点にする日本体育大学では、パリ五輪女子53キロ級金メダルの藤波朱理選手らを指導している。同協会で現役選手が理事に就くのは異例。幅広い経験を競技普及や発展につなげる役割が期待されている。任期は2年。</p>
(20)	<p>八戸ダイム 今季ホーム初優勝 3 x 3 エグゼプレミア第4 R</p> <p>3人制バスケットボール「3 x 3 エグゼプレミア」第4ラウンドが6月28日、フラット八戸で行われた。同市を拠点とする八戸DIME（ダイム）は、ショウナンシーサイド（神奈川）との決勝で勝利を収め、今季初のホーム戦優勝と2度目のラウンド優勝を果たした。八戸ダイムは今回ラウンドまで優勝、準優勝、8強、優勝と好調をキープ。全8回のラウンド成績により決定する、国内外の上位チームが出場するプレーオフ進出に近づいた。</p>



企業版ふるさと納税の3つの魅力



『企業版ふるさと納税』の案内

『企業版ふるさと納税』で八戸を応援！

八戸市では「まち・ひと・しごと」に関する事業を推進しており、応援していただけるみなさまの気持ちを、八戸市のまちづくりに活かしていきたいと考えています。ぜひこの機会に「企業版ふるさと納税」へのご協力をお願いいたします。

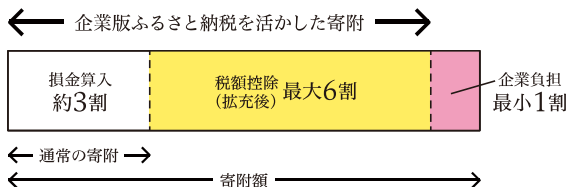


1 税制上の優遇が受けられる

損金算入による軽減効果(寄附額の約3割)と合わせて、税額控除(寄附額の最大6割)により、最大で寄附額の約9割が軽減されます。

2 社会貢献

SDGsやESGへ寄与できます。



3 自社PR

ご寄附をいただいた企業様を八戸市HPとSNSでご紹介いたしますので、企業様のPRに繋がります。

申込み方法

電話

メール

二次元バーコード

申込み・お問合せ先

政策推進課

企業版ふるさと納税担当

TEL:0178-43-9233

Email:seisaku@city.hachinohe.aomori.jp



[寄附受付事業]

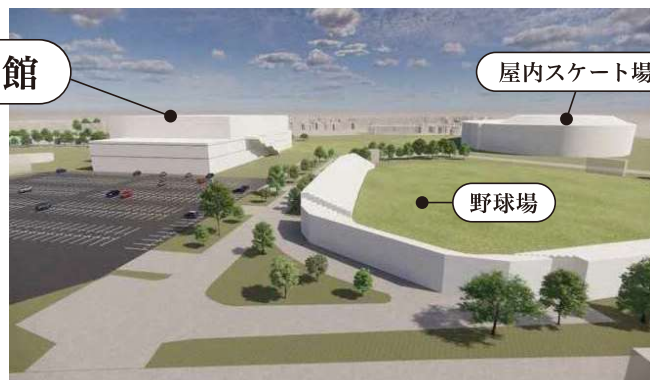
●新体育館の建て替え

スポーツやイベントなど、市民の多様な活動の場として、年間約37万人に利用されています。竣工から半世紀以上経過していることや、時代の移り変わりとともに変化する多様なニーズに応えるため、計画的に準備を進めています。

新体育館

屋内スケート場

野球場



●八戸市の魅力発信

八戸市のマスコットキャラクター「いかずきんズ」や公式SNSなどを活用して、当市の魅力を広く発信しています。

魅力を発信することで

- ◎市民の地元に対する愛着や誇りを醸成したい。
- ◎国内外の人々の当市への関心を高めたい。
- ◎交流人口や定住人口の創出・拡大につなげたい。



●八戸産ぶどうを活用したワイン産業振興

農業振興のみならず、商工業や観光業にも繋がる「ワイン産業」の振興を目指しています。

●創業・事業継承の支援拠点運営

創業及び事業継承の支援拠点を設置し、専門家による相談対応やセミナー開催等により、創業希望者等を支援しています。

●八戸市ブックスタート事業

八戸市在住の赤ちゃんとその保護者を対象に、おすすめブックリストや絵本をプレゼントしています。



はちのへ

ふるさと寄附金のご案内

『ふるさと寄附金』で八戸を元気に！

八戸市では、「八戸を応援したい!」「八戸が大好き!」という方々からいただくご寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただいております。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください！



ふるさと寄附金の3つの魅力

① 寄附金の使い道を指定できる

震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。

② 税金が控除(還付)される

控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。(控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。)

③ お礼の品がもらえる

八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 大西 伸一郎 [主査] 齋藤 千聖 [事務員] 浜井 章代

申込み方法

郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。——→
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

送付先・お問合せ先

広報統計課 ふるさと寄附金担当

〒031-8686 青森県八戸市内丸1-1-1

TEL:0178-43-2319

FAX:0178-47-1485

Email:furusatotax

@city.hachinohe.aomori.jp

インターネット

- 下記5つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス



楽天ふるさと納税



ふるなび



JRE MALL



Amazonふるさと納税



八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っています。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いします。

また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。



八戸市
Hachinohe City